

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）  
セッション討議内容の記録

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| セッション名：自転車交通（3）                     |   |
| 日付：11月 23日（月）曜日、セッション時間：15：00～17：00 |   |
| 司会者名（所属）：三村泰広（財団法人 豊田都市交通研究所）       |   |
| 討<br>議<br>内<br>容                    | <p>セッション全体：<br/>本セッションでは 30 名ほどの出席があり、4 件の発表に対して議論がなされた。自転車交通（3）ということであったが、2 件が自転車走行レーンの遵守をいかに高めていくかという視点に基づいた研究（発表番号 294、295）1 件が放置自転車対策を効果的に進めていくためにどのようなアプローチが妥当であるかを探求する研究（発表番号 296）1 件が自転車の特定箇所（シケイン部）における走行挙動の解明を試みる研究であった（発表番号 297）。主な討議内容は以下に示すとおりである。</p>  |
|                                     | <p>（発表番号）発表者名（所属）：(294) 舟渡悦夫（大同大学）<br/>         &lt;概要&gt;：国道 19 号に整備された自転車道の遵守率向上に与える影響について、利用者の進入路、駐輪場の位置の関係から把握しようとする研究。時間帯別の遵守率の違いなどの視点もあり。<br/>         &lt;主な討議&gt;：自転車道遵守率を高めるための視点（例えば、歩行者密度との関係をさらに詳細にみる必要があるという点）や自転車道の分離構造（柵）などの影響についても提議がなされた。</p>  |
|                                     | <p>（発表番号）発表者名（所属）：(295) 冷牟田優司（早稲田大学）<br/>         &lt;概要&gt;：バスレーンと広幅員道路を対象に道路構造や交通条件、利用者特性を説明変数とする自転車の車道走行選択要因モデルを構築しようとする研究。特定要因における自転車の車道選択確率についてロジスティクス回帰分析を用いてさらに詳細分析を実施。<br/>         &lt;主な討議&gt;：本研究で対象外としたスポーツタイプの自転車についても分析を実施してはどうかという議論や、歩行者密度が通行帯の選択行動に影響しなかった違いについて、母数の検討やカテゴリーの分け方を再度検討してはという意見、二輪車影響の分析結果について理解ができないため、モデルの精度を向上させる必要があるなどの議論がなされた。</p> |
|                                     | <p>（発表番号）発表者名（所属）：(296) 吉良北斗（愛媛大学）<br/>         &lt;概要&gt;：駐輪行動に対する過去の経験を効用関数により表現し、路上駐車と駐輪場駐車の選択行動をロジスティクス回帰分析（RP・SP データ融合推定法によるパラメータの推定も含む）により推定しようとする研究。<br/>         &lt;主な討議&gt;：今後、いかにモデルの精度を高めていくかという点、被験者の個人属性の影響を内在化してはという議論、自転車撤去経験の解釈方法などについて議論がなされた。</p>  |
|                                     | <p>（発表番号）発表者名（所属）：(297) 亀谷友紀（徳島大学）<br/>         &lt;概要&gt;：交差点などで導入される自転車の走行速度コントロールが可能なシケインの走行特性について、その形状を変化させながら、高齢・若者による比較を交えつつ分析した研究。<br/>         &lt;主な討議&gt;：オランダのマニュアルにおける最小曲線半径（10m 以上）の意味（特に交差点は考えておらず、スムーズに曲がるための視点）についての質疑や、高齢者への着眼点の意味、シケイン部における守られる曲線半径の値などについて議論がなされた。</p>   |